

## 江戸川小中学校のベルカントを!

●富田千種さんによる音楽出張講座を終えて!

「発声で大切なのはお腹で息をすることです。息を吐くときにお腹を引っ込めて強く吐き出しましょう。犬が夏の暑い時にはどんな息をしているかな? そう、舌を出してハッハッハッハッと息をしているよねえ、ああした呼吸をしないと熱が体中に籠もって熱中症になってしまうのです。その時に犬は、お腹で呼吸しているよね。これが腹式呼吸といって発声の基本です。さあ、やってみよう!」と、1・2年生に対する富田さんの発声指導が始まりました。



【写真は全て学校ブログより引用】 ◇ ◇

今日 14 時～17 時、春日部市立江戸川小中学校で富田千種さんによる「音楽出張講座」が行われました。江戸川小中学校は、今年 4 月に庄和地域北部にあった宝珠花小学校、富多小学校、江戸川中学校の 3 校が統合されて開設された小中一貫校で、教職員 40 名、児童生徒 168 名の学校です。4 年前の江戸川中学時代から続いている「音楽出張講座」ですが、今回初めて小学生も含めて 9 学年を対象とした講座となりました。



14 時からの 5 時限目は全員を対象として、富田さんの独唱から始まりました。音楽の山崎先生の伴奏でシェーベルトの「野バラ」(ドイツ語と日本語)、ナポリ民謡「サンタルチア」(日本語とイタリア語)、北原白秋作詞、山田耕筰作曲の日本の童謡「この道」、オペラ『魔笛』からパパゲーノのアリア「私は鳥刺し」(ドイツ語)、最後は山崎先生の希望でラテンの名曲「グラナダ」(スペイン語)で約 30 分のコンサートとなりました。

そして、5 時限目の残り 15 分はここで帰宅する 1・2 年生のために腹式呼吸の練習でした。●●君がステージに立ち指導を受けると簡単に腹式呼吸を行い、全員が楽しく指導を受けることができました。その指導が冒頭の様子です。

続いて 6 時限目は、4・5・6 年生の合同曲「いのちの歌」(作詞/Miyabi (竹内まりや) 作曲/村松崇継) でした。♪生きてゆくことの意味/問かけるそのたびに/胸をよぎる/愛しい人々のあたたかさ/この星の片隅で/めぐり会えた奇跡は/どんな吠え卯席よりもたいせつな宝物/泣きたい日もある絶望に歎く日も/そんな時にそばにいて/寄り添うあなたの影/二人で歌えば懐かしくよみがえる/ふるさとの夕焼けの/優しいあのぬくもり/本当にだいじなもの/隠れて見えない/ささやかすぎる日々の中に/かけがえのない喜びがある・♪ 私にはじ〜んと染みこむものがありました。富田さんからは口をしっかりと開けて歌詞をはっきりと歌うことや呼吸法の指導が行われました。



7・8 年と続き、最後の 9 年生(中学 3 年生)はアンジェラ・アキ作詞・作曲の「手紙 ~拝啓 十五の君へ~」でした。富田さんの熱血指導はつつい時間を超えてしまい、各学年 20 分以上、9 年生は 1 時間近くの間指導となりましたが、最初と最後では大きく違っていることが私にも良く分かりました。静かに歌う場面でもしっかりと口を開けて歌詞が聞き手に伝わるように歌うことや、力強く歌う場面でも声を張り上げずに丸く歌うことなどを指導されていました。時には「15 歳の君の悩みは何? この歌詞にある『15 の僕には誰にも話せない悩みの種』ってなんだろうね」と生徒に投げかけながら歌詞の意味を考えながら歌うことの大切さも指導されました。



富田さんは、「歌は自分が持つ自然の美しい声で、均質に、そして自分が苦しめない歌い方で楽しく歌うことが大切だ」とみんなに伝えます。イタリア語でいうベルカントだそうです。数年後、江戸川小中学校らしいベルカントが育つことを祈ります。